

いらぬ考え方をしたりして此処にその状況を報告しておいたらとまとめて見た。図にかいた様な畸型で♂♀の判別は腹部を開いて交尾器を剔出した。♂交尾器の形状は他のアオドウガネと異なった所は見られない。♂の方は両前脛節とも外歯と云ったものが無いが、♀の方は左前脛節は通常の外歯をもっていて右だけが図の様になっているものである。この採集地点はいわゆる西神地域に至る途中で、このあたりから西は最近急速に開発がされている地域で自然を残そうと云った配慮もあったりするが、虫が住宅に多くやって来て困ると云った住民の苦情が殺到している地域で、無理な殺虫剤、除草剤あたりを散布している恐れは充分であり、不自然と云うか環境破壊はかなりのものであり、あるいは虫達にもその影響が現れて来るのではと勝手な穿索をして見たくなる次第である。

蛇足ではあるが戦前アオドウガネは神戸市内ではほとんど採集したことが無かったが、戦後特にここ10年位前からいやに多いなあと云う印象を受けるコガネムシである。

(SEP. 1989)

## 県関係文献紹介

- 三木市立三木中学校生物部採集報告書。 三木中学校生物部平成元年3月24日刊。35p。  
主として甲虫類の三木市を中心にした記録である（一部赤西溪谷あたりの記録もふくまれている）。可成り珍しい種の記録もある。ただ全体を統一した出版物にして頂けたらと思われる。東川直樹氏の“美濃川に生息する蛭蛄目の調査”はワープロで打ってあり（他は手書き）、内容も立派なものであるばかりでなく仕上りも大変きれいだ。ただ全部にページは入れてほしい。今後継続しての出版を希望する。（本書は西田雅昭氏から御恵送頂いたものである）。
- 山口福男 ムシの世界（1-21）。 山陽ニュース № 456~475（1988-1989）  
“山陽ニュース”1988年1月号より上記標題の下に毎号テーマを決めて連載されている（連載は継続中。21が1989年9月号）。例えば18は“ホテル”に就いてである。読物風にまとめられてどれも楽しく読める（山口福男氏からは1~12迄のコピーと15を御恵与頂いてこのシリーズを承知した。その後山陽電気鉄道 K. K. の方に依頼して毎号送って貰っている）。御恵与頂いた山口福男氏に厚く御礼申しあげる。
- 神戸市刊 新修 神戸市史 歴史編 I, 自然・孝古。A5判 770p。  
神戸市制百周年記念事業として上記第1巻が1989年6月9日市販された（年間1-2巻ずつ刊

行、最終的に16巻になると)。この第1巻は自然と云うことで昆虫に関する記事がある。昆虫に就いては第2章神戸の生物とその生態の中で、第2節山地・丘陵の生物とその生態 2. 山地・丘陵の動物 p.56-63. 第6節、貴重な生物とその保護。3. 貴重な動物(昆虫類) p.144-145に解説がされており、p.5のカラー頁の所にキベリハムシ、ギフチョウ、ハッチョウトンボが出ている。昆虫の執筆は山口福男氏が主に担当されているように思われる。概略的な説明となっているがこの種の書としては止むを得ないと考える(一般書店で販売5,000円)。尚余談ではあるが同じく神戸市制百周年記念事業として“写真集神戸100年”が神戸市から出版されている(平成元年4月1日発行、定価3,800円)古い神戸の景色が写真で示されており、明治2年ごろの“生田の森”とか明治20年代後半の“諏訪山から市街地を望む”写真など G. LEWIS 採集時代が偲ばれて感無量である。同じく市民のグラフ“こうべ” No198, 199 (1989, 4, 5月)にも(新聞に見る神戸100年(上・下))が出ていて古い時代の神戸の様子がうかがえる。3月には後藤書店創業80周年記念出版として落合重信著 増訂 神戸の歴史。通史編が出版されている(382 p. 2,800円)。残念ながら性格上自然に関する記事はない。ただ“元禄兵庫津絵図”が原色で挿入されている。さらに7月には神戸市制100周年記念史“神戸”が各戸に配布された。

○ 緑蝶 第4・5号(1989年6月)

本誌は兵庫県産の蝶の記録も発表されているが、蝶愛好者の緑蝶会という同好会の会誌である。会員名簿を見ると大阪在住の方が大部分で(現在会員数23名)、事務局も大阪にある。大変立派なカラー表紙、カラー図版も入り写真も多く全文アート印刷で(38p.)、大変な印刷代がかかっているのではといらぬ心配が出る。どうも久方振りの出版のようで今後4年に1回発行を目標にしていると云うかなりマイペースの会誌のようである。但し例会は年10回程開催していると。

貴重なこの会誌を御恵与下さった蜂谷幸雄氏に厚く御礼申しあげる。

○ Nature Kids 04 (June 1989)

登日邦明氏が主宰される Nature Association の機関誌であり、一般向けの自然保護の啓蒙書であるのだが、「04」号の中には三田市に出来た青野ダム建設により“トンボの楽園”が消えたことが詳しく報導されている。

○ 北摂の蝶 大阪昆虫同好会創立20周年記念出版(1989年7月刊)

会誌「Crude」と同じ大きさであるが表も裏表紙もカラー、総100ページであるがカラープレートが4pl. ある。北摂の蝶のリストは最後にまとめてあり、本文は其中で注目種各論と云う形式になっており、記録、生息環境およびその変遷、今後の展望と課題等が各種に説明してある。写真とか文献も入ったりしている。その他に観察地案内として大阪府・兵庫県下12地点の解説もある。執筆者は16名となっており分担して執筆されている。同好会の出版としてはなかなかの大

作でただただ敬服するのみである。前回の“北摂の昆虫(1)蝶類”(1981)と合せて読むとこの地域の蝶のことがよくわかり楽しい。ただ会誌 Crude との関連に言及されていないので、本書は独立の出版物になるものであろう(定価3,200円と記入されている)。従って従来の Crude の紹介と違って此処で紹介しておく。

## 学会誌・同好会誌・連絡誌

( IV — 1989 ~ IX — 1989 )

のせ(大阪昆虫同好会連絡誌)

Vol. 18, No.1-8 (I-Ⅷ, 1989)

兵庫陸水生物(兵庫陸水生物研究会々誌)

No.33 (1989-6月)

Parnassius(淡路混虫研究会々誌)

No.35 (1989-6月)

混虫ずかん(但馬むしの会連絡誌)

No.21 (1989-7月)

会費納入についてお願い

1990年度会費 2,500円

出費多端の折、恐縮に存じますが、会費を年内に同封振替用紙御利用の上、お願い申し上げます。